



市原市教育委員会学校教育部
第1.5号(冬号)
平成30年2月1日 発行

未来へつなぐ いちはらの教育 ～子どもたちの幸せのために～

一人一人が未来の創り手

市原市教育委員会学校教育部長 齋藤利光

「今、学校で教えていることは、時代が変化したら通用しなくなるのではないか。」
「人工知能(AI)が進化して、人間が活躍できる職業はなくなるのではないか。」等、
情報化やグローバル化など急激な社会変化が今までの予測を超えて進展するようになる
ということが言われています。

人工知能がいかに進化しようとも、人工知能が行うことは、与えられた目的のなかで、
それをどのように処理するのかということです。

一方で、人間は、感性を豊かに働かせ、「どのように未来を創っていくか」「どのよう
に社会や人生をよりよいものにしていくか」ということを自ら考えだすことができます。

これからの子どもたち、「一人一人が未来の創り手」となるために必要な資質・能力
として「学びを人生や社会に生かそうとする力」「生きて働く力」「未知の状況にも対応
できる力」などがあげられています。すなわち、予測できない変化に対して、受け身で
はなく、主体的に判断し、社会の中で、みんなと一緒に課題を解決できるよう
になることと考えます。

市原市では、平成28年8月に、教育や文化の振興に関する施策の目標や方針を定め
る『市原市教育大綱』を策定し、基本理念として「未来へつなぐ いちはらの教育」を
掲げました。

幼児教育から学校教育、生涯学習へとつなぐ確かな教育の実践と、市民・地域の力「市
原力」を教育に活用することにより、一人一人の資質と能力を最大限に伸ばし、地域へ
の誇りと愛着を持てる子どもを育てることを目指しております。

今後とも、学校、家庭、地域が連携し、教育に「市原力」を活用させていただき、子
どもたち「一人一人が未来の創り手」となれるよう、さらなる学校教育の充実に努めて
まいります。

ご理解、ご協力、ご支援をお願いいたします。

市原市教育大綱の基本理念「未来へつなぐ いちはらの教育」実現のための基本目標

- 1 未来へ飛躍する力の基礎となる確かな学力の養成と幼児教育の充実
- 2 一人一人の個性を生かした、感性豊かな心と健やかな体の育成
- 3 いじめを許さない体制づくり
- 4 思い切り学べる教育環境づくりと支援体制の充実
- 5 生涯学習の機会充実と学習成果を生かせる仕組みづくり
- 6 多彩な地域資源を活用したスポーツの推進、歴史・文化・芸術の振興



市原アクティブ・イングリッシュ事業

今年度、グローバル化に対応できる児童の育成を目指し、次期学習指導要領に先行して、県内初、市原市独自の特色ある英語教育の環境づくりとして、学校内に英語のみ使用して生活するエリアを設定することで、校内における一日留学体験を構築し、少人数指導体制で一日6時間の英語活動を実施しております。

1. 実施対象 ・市内全小学校41校の5年生(2,350名)
2. 実施方法 ・学校内に英語のみ使用して生活するエリアを設定します。
 ・小学校毎に1グループ10名程度の少人数グループを編成します。
 ・1レッスン30分展開、6レッスンを中心に通常授業とは異なる英語活動を展開します。
 ・各グループに外国人講師(ALT)が1名付き、少人数体制で英語活動を実施します。



【指導課】

教職員の業務改善にご理解、ご協力をお願いします

平成29年8月29日、中央教育審議会初等中等教育分科会「学校における働き方改革特別部会」では、教職員の長時間勤務の改善に向けての緊急提言をまとめました。具体的には、教職員の出退勤時刻の管理、部活動の適切な運営、長期休暇期間の学校閉庁日の設定等が提言されました。

市原市教育委員会においても、教職員一人一人が、ゆとりある環境の中で、誇りや、やりがいを持って、元気に明るく子ども達を指導し、健康で充実した教育活動に取り組むことができるよう、教職員の業務改善検討委員会を立ち上げ、業務改善の検討を進めています。趣旨をご理解いただき、今後の業務改善に関する具体的な取組へのご理解、ご協力をお願いいたします。

【学校教育課】



タブレット端末で、わかりやすく、より深まる授業を!

平成28年度より市原市では、市内小中学校の学習用パソコンをタブレット型パソコンに段階的に導入し、子どもたちの学力向上の一助として、環境を整えてまいりました。今年度は、小学校のパソコン室の端末をタブレット型パソコンに更新しました。タブレット型パソコンにすると多くのメリットが生まれます。

まず、パソコン室に行かなくても教室で利用できるもので、移動の時間がかからなくなり、また、大型テレビと接続して、教科書やネットにある資料を簡単に拡大して映すことができ、子どもたちの意欲を高めることができます。

さらに、授業支援ソフトを活かし、電子黒板のように利用したり、子どもたちの意見や考えを即座に大型テレビに映し出し、話し合いの深まる学びを実現したりしています。他にも千葉大学と連携した情報モラル教育や、企業の協力を得てプログラミング教育にも他市に先駆けて取り組んでいます。

今後も、市原市すべての子どもたちのために、「未来につながる いちはらの【ICT】教育」を推進してまいります。

【教育センター】

